

II-5

どんな動物がいたのだろうか？

岩宿（旧石器）時代には、現在日本にはいない大形の絶滅動物がいたことがわかっています。それらの多くは、陸続きになっていたところや氷の橋を渡ったりして大陸からやってきたと考えられています。ナウマンゾウやオオツノシカがその代表で、野牛の仲間やハナイズミモリウシなどもいました。氷河時代だったので、寒い地域の動物であるマンモスが北海道まで、ヒグマやヘラジカも本州までと北から南へおりてきました。それらの大形動物に比べ行動範囲が狭い中形から小形の動物は、最近の研究では日本列島内で独自に進化してきたものが多いと考えられています。

これらの動物は、岩宿（旧石器）時代の人々にとって、なくてはならない狩りの獲物となっていたことでしょう。



●ナウマンゾウの全身骨格
(提供：栃木県立博物館)



●オオツノシカの全身骨格
(提供：栃木県立博物館)



●岩宿（旧石器）時代の大形動物とその広がり